

Respice Stellam, Voca Mariam !



小鳩会通信

～私たちのしていることは大海の一滴にすぎないと感じています。

けれど、もしその一滴がなければ、海はその一滴分、確かに少ないということです。～マザー・テレサ

こども食堂で感じたこと

高校Ⅱ年 西野 早慶

今回、コロナ禍でも、このボランティアを開催していただいて、本当にありがとうございます。新型コロナウイルス感染症の影響でなかなかボランティア活動が出来ず、ボランティアをする意味を忘れてしまいそうでした。まだまだコロナ感染は治まりそうもなく、日々、感染のニュースも耳にします。ですから、今回のボランティアも本来の形では開催することができませんでした。そんな中でもボランティアをするということが大切だと私は思います。



午前中、一緒に宿題をしたり…。人数制限もあり少しさびしいなか、高校生のお兄さんが登場。

私は今回、小学2年生の男の子のお世話をすることになりました。その子は、初めこそ緊張していたものの、すぐ慣れてくれ、気軽に話しかけてくれるようになりました。私は昔から子どもの面倒を見るのが好きだったので、とても楽しい時間になりました。

まず、男の子は学校の夏休みの算数の宿題をしていました。内容は時計の読み取りでした。みなさんは小学2年生で習ったことを覚えていますか。私は覚えていませんでした……。時計の読み取りは今では当たり前のように読み取っているため、どう教えたらいいのか最初は苦労しました。この時、「当たり前のことほど、教えることが難しいんだ……」と思いました。例えば、「1時間は何分ですか。」聞くと、「1分。」と言われてしまい、少しびっくりしましたが、教えたら理解してくれてくれたようで、よかったです。その後は、順調に進んでよかったですと思います。その後、歯ブラシの飾り付けをしました。幼稚園、小学生の頃いろんなものをデコレーションしたことを思い出しました。まず、誰のために作るのかを聞いたところ、「お母さんに作る。」と言ってくれました。その後、お母さんの歯ブラシができれば、今度は「お父さんとおばあちゃんに作ってあげる。」と言っていました。この子は本当に優しい子だと思いました。その後、歯ブラシを作り終わると本を読み出しました。小学生から本をしっかり読んでいて、とても感心しました。

私も本は好きでしたが、あそこまで真剣には読んでいなかったと思います。子どもと触れ合うことで、かつての自分を思い出すことができるし、子どもが喜んでくれることをできるのはとても嬉しいです。今回だけではなく、もっともっと子どもたちと交流したいです。最後に男の子に言われました。「次、いつ会えるの?」と。早くコロナウイルスの感染が治まって、交流を増やしていきたいです。改めて、今回はこんな状況の中、ボランティアをさせていただいた子ども食堂の皆さん、そして、諦めずに開催まで漕ぎつけてくださった先生方本当にありがとうございました。また次回があれば、ぜひ参加したいです。

こども食堂ボランティアへ行って

高校1年 北川 清啓

私は、夏休みに入った7月29日（金）に、若王寺こども食堂にボランティアに行きました。こども食堂のボランティアでは、子どもたちへ贈るお弁当の用意や会場の設営の準備をしました。コロナでなければ、実際に食堂に来て、ランチを食べてもらい、私たちが配膳は洗いの手伝いをするのですが、コロナ禍では、お弁当の配布にとどまっています。



コロナ禍のため、食堂はできず、お弁当を手渡しする活動を続けています。早く、以前のような笑顔あふれる食堂に。

こども食堂はコロナのため休止していた時期もあり、実際に、こども食堂に来てくれる子どもたちは少なかった様に思いました。コロナによる来場制限もありました。以前は、食事だけでなく、午前中の勉強や午後の遊びに多くの子どもたちが来ていたようです。でも、お弁当の受け渡しは沢山ありました。部活帰りに受け取りにくる中学生、兄弟で訪れる小中学生、様々でした。

この活動を通して、私はどんな仕事に対してもポジティブな気持ちで自主的に仕事ができるようになった気がしますし、人の輪、新しい人たちと出会えて嬉しかった記憶も残りました。

私は、このボランティアにとどまらず、「様々な活動を次の世代に繋げることが大切なんだ」と感じました。こども食堂のボランティアも新型コロナウイルスで活動が妨げられてしまったことで、来てくれる子どもの数が少なくなってしまいましたが、これからも活動を続けることで、きっと来てくれる子どもたちも、再び多くなってくると思いました。ボランティアに興味があるが、実行に移すのをためらっている人、ボランティアに興味がない方も思い切ってやってみてはいかがでしょうか。一見、ボランティアは人のための活動ですが、自分自身も活動を経験して得るものがある、と思います。この記事や小鳩会通信を見て興味湧いたら、一緒に、参加しましょう。

◆今回の献金期間と献金先◆ 12月12日（月）～12月23日（金）終業式

- 日本国際飢餓対策機構（チャイルドサポーター）
- 円ブリオ基金センター（赤ちゃんの誕生を支援する）

小鳩会委員は、担任の先生と相談して、献金期間のうち都合のよい機会を活用してクラス献金をお願いします。

小鳩会活動は、お金を集めるだけが目的ではなくて、お小遣いでのおやつをひかえて他の人に差し上げる気持ちで献金する、自分の時間を手伝いのために使う、電車の席を譲る…など、自分を差し出して、支えあい、お互いの気持ちが豊かになることに活動の意義があります。日常を小鳩会活動にしてゆきましょう。

米一合のご協力 ありがとうございます

先日の米一合へのご協力、ありがとうございました。全校の皆さんで持ち寄ったお米は、釜ヶ崎での炊き出しの食材となります。また、石けんも配布されます。朝礼時に各クラスで集められたお米は、終礼後、有志の皆さんのミニ・ボランティアとして、整理・荷造りされ、当日のうちに現地に届けられました。また、中学三年生の保護者の方から沢山のお米をお預かりしました。

